サアートに懸ける

「私」だけでなく「私たち」の絵を描きたい――。 2019年のつなぎ美術館の滞在制作プログラムへの招聘をきっかけに、 津奈木町へ移住した地域おこし協力隊・大平由香理さん。 多くの人と関わりながら、作品を生み出してきた 大平さんのこれまでの取り組みを特集します。 その3年間の活動から、津奈木町のアートの未来を考えます。 3 TSUNAGI

アート× 体験

大平由香理アート体験ツアー 津奈木オリジナルの絵の具づくり

期開催。参加者は土地の石や砂などをく だいてオリジナルの絵の具作りを体験しま した。



もりのちいさな図書館づくり 手作り図書館、交流の場に

図書館の壁画を制作。デイサービス利用者、 職員、子どもたちにも壁画に手形を押して もらいました。みんなで描いた明るい山の 風景が輝いています。

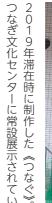




アグリビジネスチャレンジ事業 絵の描き方をアドバイス

小学生が育てたサラダ玉ねぎ。全国の購入 者へ出荷される段ボールには、大平さん協 力のもと小学生によって町の名所や柑橘、 魚介類などの特産物を描いてきました。











トによるまちづくり への

添えるアートはどんなものなのかを形にしてい

3年前に津奈木町の地域おこし協力隊になった大平

日本画家として全国各地で制作活動した経

津奈木町との出会いは、

つなぎ美

を生かしながら、

3年間の活

一少子高齢社会が進む中で必要とされるア

隊として活動することを決めました。 より深く関わりた する企画。 術館が20 任期中は美術館業務を日常的にサ の招聘が縁でした。 さらに3年間、 人の画家を招いて実施 しながら、 水やりや除草作業といった、 滞在制作をする中で、 ながら作品を制作 によるまちづくり」 準備段階からさまざま 柳幸典つなぎプロジェ 作品制作を続けて いと思うようにな 地域おこし協力 9年にかけて 栽培や植 し発表

たワ

ークショップなどを通じたア

の技法講習会、

体験ツア

を企画。

他には、

町を

Profile おおひら・ゆかり

1988 年岐阜県生まれ。東北芸術工科大 学大学院芸術文<mark>化専</mark>攻日本画研究領域 修<mark>了。人間の力が及ばない大自然を固有</mark> の視点でとらえ続けている。「アーティス イン・レジデンスつなぎ」への参加

係各所と連携して行いました。 定期的な植生維持管理業務などを関 物を町民と協力しながら、 クトでは、《入魂の宿》の敷地内に植 な企画に従事。 える前年で、 着任時は同館20周年を迎

半

風景や作品を作りました。

町で暮らすことでしか描けなかっ

いた風景を全国各地の美術館など

町の周知に努めました。

壁画制作や授業の一 きた経験を生かすことができまし 町につなげる役割を担い に訪れるア ことができました。この他に、 環境省のコンテストで賞をいただく るので、 個人の活動では、 の現場は常に柔軟な対応が求めら ークショップなどを通じたアー技法講習会、外部から委託され、水俣・芦北地域の美術教員向 今までのア ティストや町外の 一環として絵本づいくの小学校へ 近くの小学校へとができました。 /ートをきっかけ/ト対応などに携 「に関わって 人を

町民の皆さ いです。

世界に発信できるようなア 町で学んだ経験を生か んには感謝の気持ちでい お世話になりました。

滞在制作事業を含めると、 約3年

5 TSUNAGI TSUNAGI 4

艇庫に描かれた迫力ある赤い龍

ドラゴンボートチーム「津奈木海龍」の 艇庫の扉に約1か月かけて、大平さんが 赤い龍を描き上げました。代表の柳迫 好則さん(大泊)から依頼を受けて制作。 イメージを膨らませるため、海龍の練習 や大会を見学した大平さん。「エネルギー がほとばしり、矢のように走り抜ける姿 を表現したかった」と話します。龍が今 にも動き出しそうな出来栄えにメンバー たちは「この龍に負けないように私たち も気合いを入れて頑張りたい」と意気込 んでいました。



梅雨の合間に天候を見ながら短期間に集中 して描いたそう



6月18日回に壁画のお披露目会が開かれ、 メンバーと一緒に記念撮影



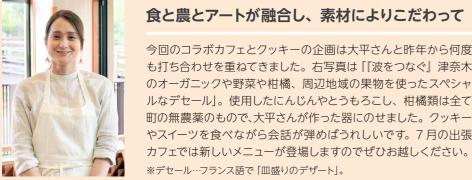
出張カフ 同館 2 階の喫茶室では 「お茶」 の長友 и В О んくで 木産の 米粉な (ヨコ) ヌな 健康



出張カフェでスイーツを盛り付け たときに使用した器は大平さん自 らが陶芸教室で焼き上げた



重盤岩を描いたクッキーなどが 入った「津奈木ナチュラル BOXI。 7/17 (月)までは美術館でも購入可



Interview / 津奈木町の洋菓子店 「あん・さんく」 が本展とコラボレート



あん・さんく 長友美波さん

成果展「波をつなぐ」

4月22日出からつなぎ美術館で始まった成果展「波をつなぐ」。 大平さんの3年間のアーティストとしての滞在は、芸術が手段で はなく目的としての価値を有することを明らかにする試みでもあり ました。町民と共に作り上げてきた成果展の様子をお届けします。

の高齢者施設の入所者など郷土料理の絵が並

の煮付い

に残る

理や

生活の

様子 0)

《流転》、

四季

ルである 会場の奥にあるの 「重鍵岩」 したか 民と創作活動の 台の 町の もあります 和紙をつな 風景を描 重盤岩 かけに シンボ



《重盤岩》は期間中に会 場内で公開制作を実施。来 場者によって制作されたパー ツが作品の一部として生か されている 2_6月24日 出に原田真紀さん (インディ ペンデントキュレーター)と 対談。住民と共に描くこと の意味を問い、地域におけ るアートの役割などを話した

た令和2年7月豪雨の被災状況を

着任直後に起

た作品です。

Interview /作品《重盤岩》制作に参加して



西平 彩音さん (川内)

みんなで作った大作

大平さんの作品を見て、いろんな色 を使っていてきれいで感動しました。 私は自然の絵を描くのが好きなので、 美術館に行って一緒に作品を作りたい と思って参加しました。自分の作った ものが作品の一部になったときはう れしくてたくさんの人に見てもらいた いです。



7 TSUNAGI TSUNAGI 6













アートへの思いを込めて 3年間の感謝と津奈木町の

大平 由香理さん

私が津奈木町のことを初めて





信しています。

任期終了後は秋から渡米し、









ださい。3年半本当にありがと 第二の故郷、津奈木町との縁は 必ず町に還元したいと思います。 としてさらに成長することで、 描くことができました。 がえのない時間でした。町の皆津奈木町で過ごした日々はかけ とがあれば気軽に声をかけてく いるので、またお役に立てるこ さんに育てていただき、 る人間になりたいと思います。 し、町の魅力を世界に発信できしても1人の人間としても成長 することになりました。 美術館に招聘され、 一生切れることはないと思って マサチュー た気持ちを糧にアーティスト!くことができました。いただ 時間でした。 セッツ州にある現代 作品制作を 作品を 画家と

うございました。

た。いくらお金をかけて打ち上前から私は疑問を感じていましを追い求めるだけのあり方に以とがありますが、一時的な数字 に見ても他に類を見ない活動がに見ても他に類を見ない活動がに見ても他に類を見ない活動がのかます。国際的な芸術祭や一般的な美術館では入館者数や一般的な美術館では入館者数を一般的な美術館では入館者数 大概続くことはありません。アーかれたとしても、よその成功事例れたとしても、よその成功事例ががありません。 まり、移住することにしました。はすっかり津奈木町の魅力にはえています。個展を終えた後にたことを昨日のことのように覚 をかけていただき、 美術館の滞在制作作家として声 知ったきっかけはア うれしかっ

トは地域おこしのための一時的 を経済ではなく、地域の課題を解決するためのものでもな く、むしろ問題提起や新たな見 方や気付きの発見を促すものだ と私は思います。津奈木町のアー と私は思います。津奈木町のアー と私は思います。オーカのでもな でしているため、今後これ からより一層社会にとって必要 になっていくのではないかと確 9 TSUNAGI TSUNAGI 8